KORG DIGITAL PIANO

CONCERT C-3200

このたびは、コルグ デジタル・ピアノ C-3200をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

取扱説明書

目　次

おもな特長 4

各部の名称とその機能 4

スイッチ、鍵盤の機能 6
- 1. ［音色セレクター］スイッチ 6
- 2. レコーダー・セクション 6
- 3. 鍵盤 6

演奏するための準備 7
- 1. 演奏を始める前に 7
- 2. ヘッドホンを使うときは 7
- 3. 譜面立てを使うときは 7

デモ演奏を聴いてみましょう 8
- 1. すべてのデモ演奏を聴くときは 8
- 2. 選んだデモ演奏を聴くときは 8
- 3. デモ演奏を一時停止するときは 9
- 4. デモ曲に合わせて練習する 9
- 5. デモ演奏のテンポを変えるときは 9

弾いてみましょう 10
- 1. 音色を選ぶ 10
- 2. 音に効果を加える 12
- 3. ペダルを使う 12
- 4. メトロノームに合わせて演奏する 13
- 5. 鍵盤のタッチ感を変える 14
- 6. キーを変更する（移調） 15
- 7. 音の高さを微調整する 15
- 8. 音律を選ぶ 16
- 9. 設定を記憶する 16
- 10. 工場出荷時の設定に戻す 16

演奏を録音／再生してみましょう 17
- 1. 演奏を録音する 17
- 2. 録音した曲を聴く 18
- 3. 演奏データを消去します 18

MIDI機器との接続 19

故障とお思いになる前に 23

仕　様 24

スタンド（STD-3200）の組み立て方法 25
- 組み立て時の注意 25
- 組み立て方法 25
- その他の注意 26

KORG

Ⓙ ②

安全上の注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

CAUTION
RISK OF ELECTRIC SHOCK
DO NOT OPEN

AVERTISSEMENT:
RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.

注意　感電の恐れあり、キャビネットをあけるな

マークには次のような意味があります。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。
デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。
小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。**
  ○ 電源コードやプラグが破損したとき
  ○ 異物が内部に入ったとき
  ○ 製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、または営業技術課へ修理を依頼してください。

- **本製品を分解したり改造したりしない。**

- **修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。**
- **電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものを乗せない。**
  電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**

- **雨天時の野外などのような湿気の多い場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に液体の入ったもの（水や薬品等）を置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**

- **濡れた手で本製品を使用しない。**

⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。**
- **本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。**

- **長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。**

- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
  本製品が転倒する危険性があります。

- **キー・カバーまたは譜面立ての開閉時は、指や手を挟まないようにする。**

付属のスタンドについて

- **取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って確実に設置する。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

付属のイスについて

- **ピアノの演奏用にのみ使用する。**
  イスで遊んだり、イスを踏み台等に使用すると、転倒してお客様がけがをしたり、イスが壊れる恐れがあります。

- **二人以上で腰掛けない。**
  付属のイスは一人用です。

- **高低自在イスの高さを調節するときは、イスから降りてから確実に行う。**
  腰掛けたままで高さの調節を行うと、手を挟み傷害を負う恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータは外部のデータファイラー（記憶装置）等にセーブしておいてください。またデータの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱説明書の表記について

スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[　]で括っています。

（☞p.■）：参照ページを表します。

：使用時の注意を表します。

MeMO：使用時のヒント等の内容を表します。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。

また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

＊ MIDIは社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
＊ 掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

おもな特長

グランド・ピアノのようなタッチ感

低音部は重めで高音部は軽めといった、グランド・ピアノのように音域によって鍵盤の重量感が4段階に異なるRH2（リアル・ウエイテッド・ハンマー・アクション2）鍵盤を採用しています。

多彩な音色 （☞p.10）

コンサートグランド・ピアノ音色をはじめとした、コルグ独自の高品位な8種類の音色が選択でき、ベースを加え計9種類の音色を内蔵しています。レイヤー機能やスプリット機能で、同時に2つの音色を組み合わせた演奏も可能です。また、ステレオ・サンプリング音源を搭載していますので、コンサートグランド・ピアノの豊かな表現力だけでなく、心地よい広がりのある響きが楽しめます。

エフェクト機能 （☞p.12）

コンサートホールで演奏しているような響きや、音にうねりを与え、広がりのある豊かな響きにするデジタルエフェクトを内蔵しています。

ペダル効果 （☞p.12）

アコースティック・ピアノと同様に3つのペダルがあり、それぞれ、ダンパー、ソステヌート、ソフトの効果が得られます。ダンパー・ペダルは、アコースティック・ピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果を再現します。ダンパー・ペダルとソフト・ペダルは、ペダルを踏む深さで効果のかかり方を調整できます（ハーフ・ペダル機能）。

メトロノーム機能 （☞p.13）

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらに強拍時にベルの音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

レコーダー機能 （☞p.17）

自分の演奏をそのまま録音、再生できるレコーダーを内蔵しています。テープレコーダーを操作する感覚で使用できます。

タッチ・コントロール機能 （☞p.14）

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、3種類の中から選択できます。

音 律 （☞p.16）

平均律の他に、2種類の古典音律（キルンベルガー、ヴェルクマイスター）を選択することによって、古典音楽等の再現も可能になります。

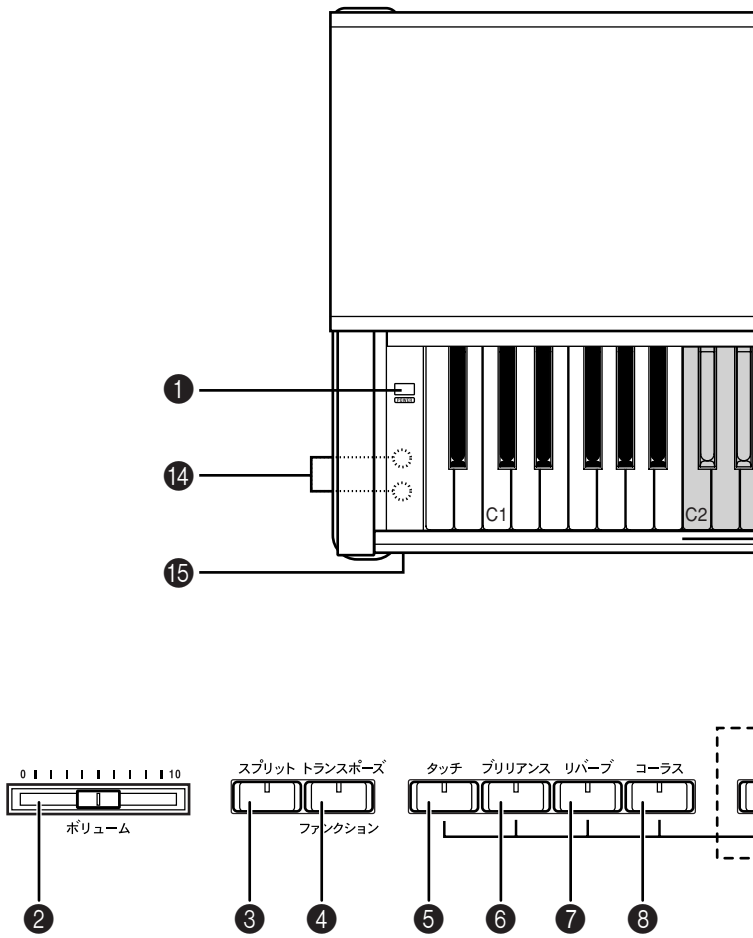
音の高さの調整 （☞p.15）

トランスポーズ機能で移調を、ピッチ・コントロール機能で音の高さの微調整を行うことができます。

MIDIの装備 （☞p.19）

電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格「MIDI」を装備しています。MIDIでは接続した機器間で相互にコントロールすることができ、本機を16パートマルチティンバー音源としても使用することができます。

各部の名称とその機能



❶ **［POWER］（パワー）スイッチ**
電源をオンまたはオフにします。押すたびにオンとオフが切り替わります（☞p.7）。

❷ **［ボリューム］スライダー**
スピーカー、ヘッドホンから出る音量を、コントロールします（☞p.7）。

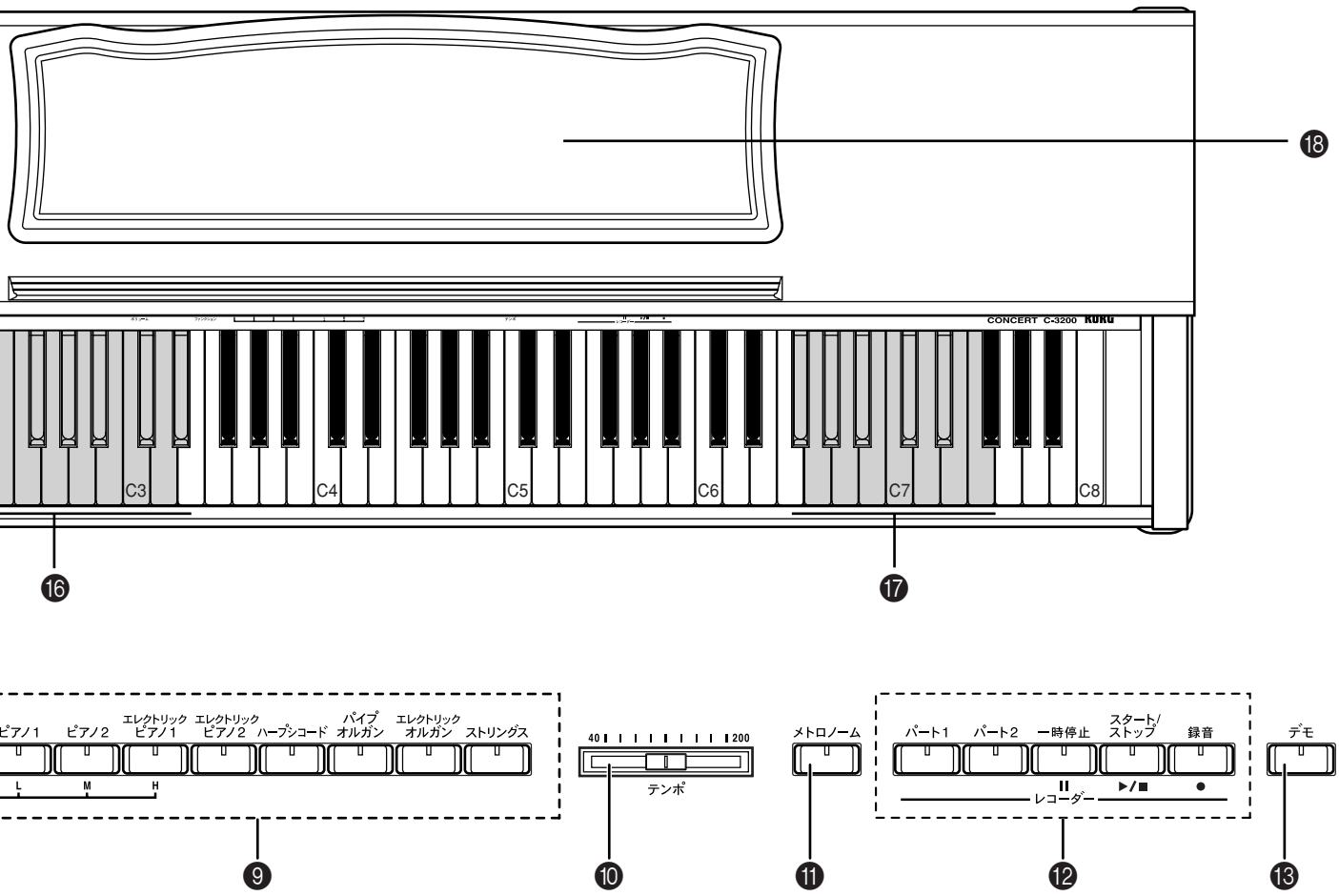
❸ **［スプリット］スイッチ**
鍵盤を低音側と高音側に分けて、別々の音色で演奏するためのスイッチです（☞p.11）。

❹ **［トランスポーズ/ファンクション］スイッチ**
移調（☞p.15）や、MIDIに関する設定（☞p.19）を行うときに使います。この他さまざまな設定にも使用します。

❺ **［タッチ］スイッチ**
鍵盤のタッチを設定するスイッチです（☞p.14）。

❻ **［ブリリアンス］スイッチ**
音色の明るさを設定するスイッチです（☞p.12）。

❼ **［リバーブ］スイッチ**
音に残響を加えるスイッチです（☞p.12）。



❽ **[コーラス] スイッチ**
音に広がりを加えるスイッチです（☞p.12）。

❾ **[音色セレクター] スイッチ**
音色を選びます（☞p.10）。
ピアノ1、2、エレクトリックピアノ1、2、ハープシコード、パイプオルガン、エレクトリックオルガン、ストリングスの8音色から選択します。
2つの音色を同時に使って演奏することもできます（レイヤー機能）。

❿ **[テンポ] スライダー**
メトロノーム、レコーダーのテンポを調整します（☞p.13）。

⓫ **[メトロノーム] スイッチ**
メトロノームをスタート/ストップします（☞p.13）。

⓬ **レコーダー・セクション**
演奏を録音/再生します（☞p.17）。

⓭ **[デモ] スイッチ**
デモ曲を演奏します（☞p.8）。

⓮ **ヘッドホン端子（本体底面にあります）**
ステレオヘッドホンを接続します（☞p.7）。

⓯ **パワー・ランプ**

⓰ **MIDIチャンネル用鍵盤**
MIDIチャンネルを設定します（☞p.19）。

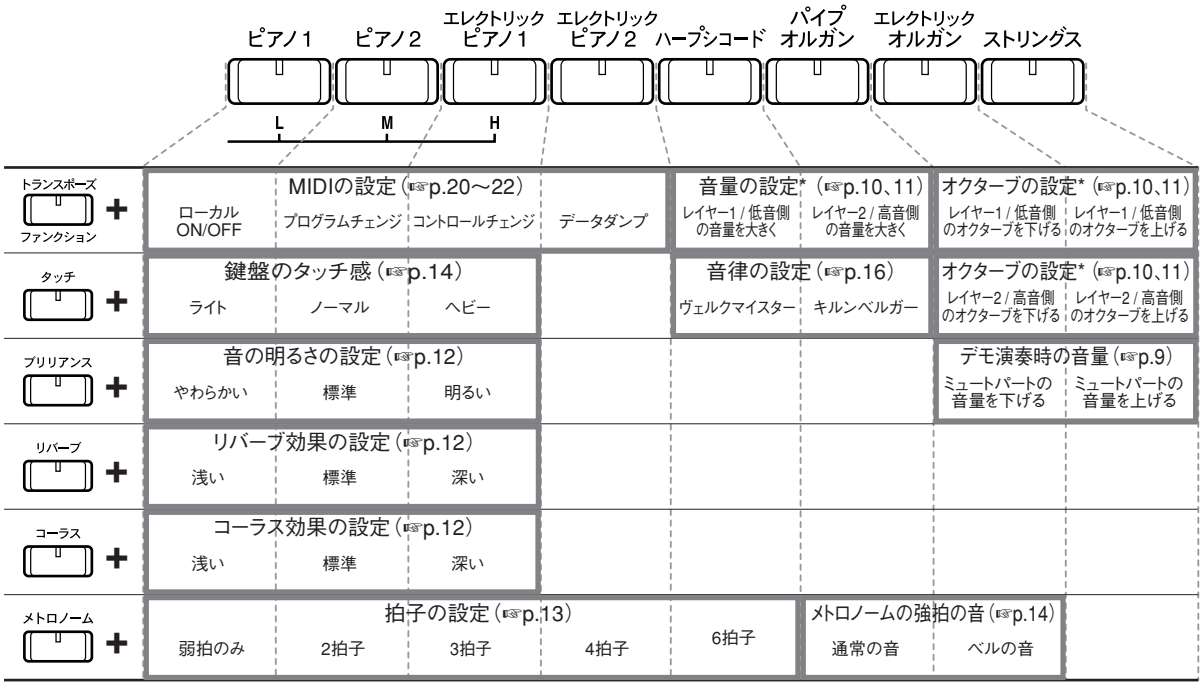
⓱ **トランスポーズ用鍵盤**
トランスポーズ（移調）をします（☞p.15）。

⓲ **譜面立て（☞p.7）**

スイッチ、鍵盤の機能

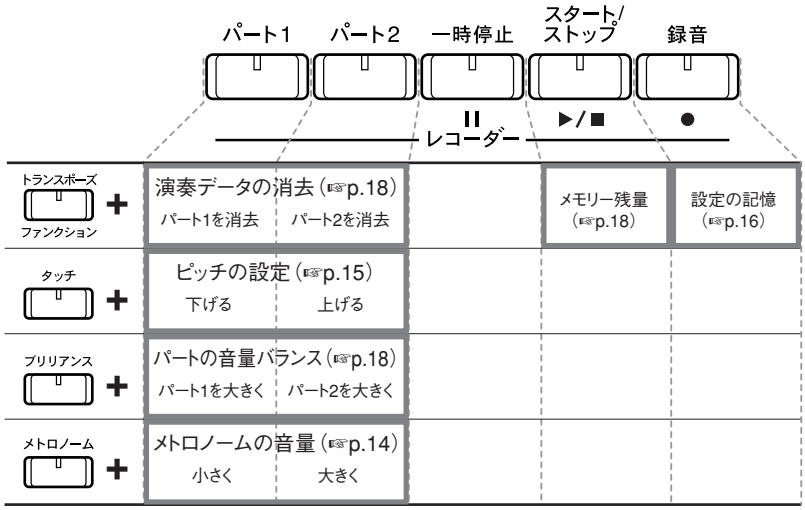
スイッチや鍵盤で設定できる機能の一覧です。

1. [音色セレクター] スイッチ

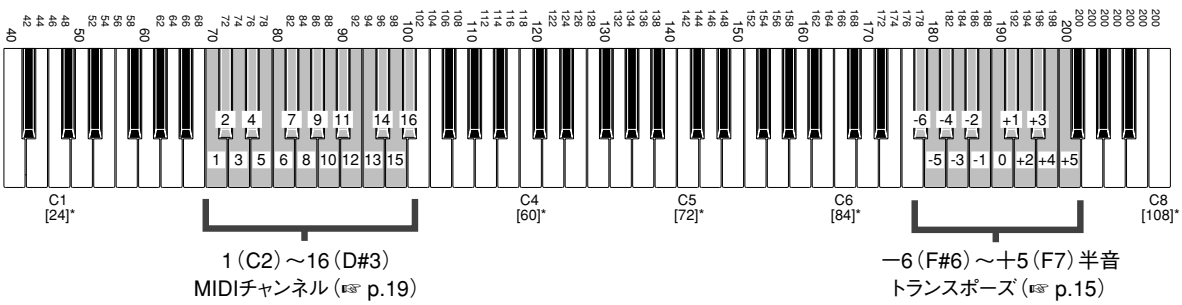


* レイヤー機能/スプリット機能時の設定

2. レコーダー・セクション



3. 鍵盤



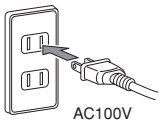
テンポ（♩＝）の設定（☞p.13）

* [　] 内はMIDIノートNo.

演奏するための準備

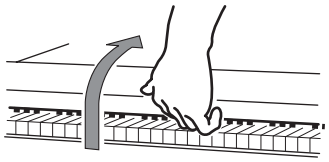
1. 演奏を始める前に

1. **電源コードを差し込みます。**
   電源コードのコネクターを、本体底面のソケットに差し込みます（☞p.26）。
   電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。



   必ず**AC100Vの電源コンセント**に、差し込んでください。

2. **キーカバーを開けます。**
   キーカバーのへりの中央部分を軽く持ち上げて、支えながら静かに奥の方へスライドさせてください。



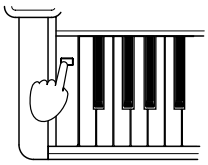
   キーカバーを閉じるときは、へりの中央部を軽く持ち、手前へスライドさせてください。

   開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。

   無理な力を加えたり乱暴に開閉すると、故障の原因となります。

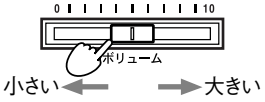
   キーカバーを開けるときは、キーカバーの上に紙やコイン等が無いことを確認してください。中に入り込む恐れがあります。

3. **電源をオンにします。**
   ［POWER］スイッチを押して、電源をオンにします。
   正面左側にあるパワー・ランプが点灯します。



   電源をオフにするときは、もう一度［POWER］スイッチを押します。パワー・ランプが消灯します。

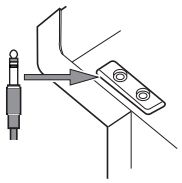
4. **音量を調整します。**
   ［ボリューム］スライダーは、本体のスピーカーとヘッドホン端子から出力される音量をコントロールします。



   ［ボリューム］スライダーを中程まで上げます。スライダーを右に動かすと音が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。“0”の位置では音が出ません。
   実際に弾きながら、適度な音量に調整してください。

2. ヘッドホンを使うときは

本体左側の底面にあるヘッドホン端子に、ステレオヘッドホンのプラグ（標準プラグ）を差し込みます。
ヘッドホンを差し込むと、本体のスピーカーからは音が出なくなります。
夜間などの周囲へ伝わる音が気になるときは、ヘッドホンをお使いください。
ヘッドホン端子は2つありますので、2人でヘッドホンを使用することができます。

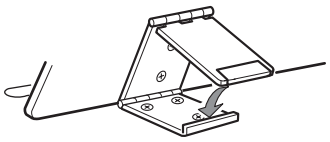


   ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長時間聴かないでください。

   「ミニ→標準」の変換プラグのついたヘッドホンを使用する場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。

3. 譜面立てを使うときは

譜面立てを起こし、裏面にある2つのストッパーを使って、倒れないように固定します。



デモ演奏を聴いてみましょう

本機には、4つのバンク（A～D）に計32曲のデモ演奏が入っています。

バンクA（No.1～No.8）は音色紹介のデモ演奏、バンクB～D（No.9～No.32）はピアノ曲のデモ演奏です。

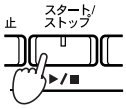
デモ演奏を聴いて、本機の豊かな音色とその表現力を確認してください。

バンク	No.	[音色セレクター]スイッチ	曲名 / 作曲者
A	1	ピアノ1	幻想即興曲 Op.66 / F.ショパン
	2	ピアノ2	Harmony of Love / KORGオリジナル
	3	エレクトリックピアノ1	Confusion / KORGオリジナル
	4	エレクトリックピアノ2	The Garden / KORGオリジナル
	5	ハープシコード	インベンション 第1番 / J.S.バッハ
	6	パイプオルガン	フーガト短調 / J.S.バッハ
	7	エレクトリックオルガン	Cool "B" / KORGオリジナル
	8	ストリングス	G線上のアリア / J.S.バッハ
B	9	ピアノ1	プレリュード(平均律第1番より) / J.S.バッハ
	10	ピアノ2	ソナタK.545 第1楽章 / W.A.モーツァルト
	11	エレクトリックピアノ1	トルコ行進曲(ソナタ K.331より) / W.A.モーツァルト
	12	エレクトリックピアノ2	エリーゼのために / L.v.ベートーヴェン
	13	ハープシコード	アラベスク Op.100-2(25練習曲より) / F.ブルグミュラー
	14	パイプオルガン	スティリアの女 Op.100-14(25練習曲より) / F.ブルグミュラー
	15	エレクトリックオルガン	貴婦人の乗馬 Op.100-25(25練習曲より) / F.ブルグミュラー
	16	ストリングス	春の歌 Op.62-6(無言歌集第6巻より) / F.メンデルスゾーン
C	17	ピアノ1	ワルツ 第6番 変ニ長調「小犬」 Op.64-1 / F.ショパン
	18	ピアノ2	ワルツ 第7番 ホ短調 Op.64-2 / F.ショパン
	19	エレクトリックピアノ1	ノクターン 第2番 Op.9-2 / F.ショパン
	20	エレクトリックピアノ2	マズルカ第5番 Op.7-1 / F.ショパン
	21	ハープシコード	トロイメライ Op.15-7 / R.シューマン
	22	パイプオルガン	荒野のばら / G.ランゲ
	23	エレクトリックオルガン	紡ぎ歌 / A.エルメンライヒ
	24	ストリングス	人形の夢と目覚め / T.オースティン
D	25	ピアノ1	ゴリィウォーグのケークウォーク / C.ドビュッシー
	26	ピアノ2	亜麻色の髪の乙女 / C.ドビュッシー
	27	エレクトリックピアノ1	アラベスク 第1番 / C.ドビュッシー
	28	エレクトリックピアノ2	月の光 / C.ドビュッシー
	29	ハープシコード	黒鍵のエチュード Op.10-5 / F.ショパン
	30	パイプオルガン	別れの曲 Op.10-3 / F.ショパン
	31	エレクトリックオルガン	ジムノペディ第1番 / E.サティ
	32	ストリングス	愛の挨拶 / E.エルガー

1. すべてのデモ演奏を聴くときは

1. **[デモ] スイッチを押します。**
   [デモ] スイッチのランプが点灯し、デモモードになります。
   [音色セレクター] スイッチのランプが**1つずつ順番に点灯**を繰り返します。

2. **[スタート/ストップ] スイッチを押します。**
   No.1の「幻想即興曲 Op.66」が始まり、No.32の「愛の挨拶」まで順番に演奏します。
   No.32の演奏が終わるとNo.1へ戻り、演奏を繰り返し行います。



曲の演奏中に [音色セレクター] スイッチを押すと、そのバンクの中で、繰り返し演奏されるようになります。

例えば、No.10の「ソナタK.545 第1楽章」の演奏中に [音色セレクター] スイッチの "ストリングス" を押すと、No.16の「春の歌 Op.62-6（無言歌集第6巻より）」が演奏されます。以後No.9へ戻り、演奏を繰り返し行います。

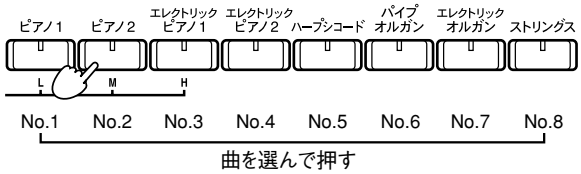
デモ演奏の音色は変更できません。また、メトロノーム機能は動作しません。

2. 選んだデモ演奏を聴くときは

バンクAの曲を選ぶときは

1. **[デモ] スイッチを押します。**
   [音色セレクター] スイッチのランプが**1つずつ順番に点灯**を繰り返します。

2. **[音色セレクター] スイッチを押して、デモ演奏を選びます。**
   [音色セレクター] スイッチは、左側からそれぞれ**No.1～No.8**の曲に対応しています。
   選んだ曲が始まり、No.8まで順番に演奏します。それが終わるとNo.1に戻り、演奏を繰り返し行います。



3. **デモ演奏を終えるときは、[デモ] スイッチを押します。**
   デモモードから抜けます。

バンクBの曲を選ぶときは

1. **[デモ] スイッチを2回押します。**
   [音色セレクター] スイッチのランプが**すべて同時に点滅**を繰り返します。
2. **[音色セレクター] スイッチを押して、デモ演奏を選びます。**
   [音色セレクター] スイッチは、左側からそれぞれ**No.9〜No.16**の曲に対応しています。
   選んだ曲が始まり、No.16まで順番に演奏します。それが終わるとNo.9に戻り、演奏を繰り返し行います。
3. **デモ演奏を終えるときは、[デモ] スイッチを押します。**
   デモモードから抜けます。

バンクCの曲を選ぶときは

1. **[デモ] スイッチを3回押します。**
   [音色セレクター] スイッチのランプが**1つおきに交互に点滅**を繰り返します。
2. **[音色セレクター] スイッチを押して、デモ演奏を選びます。**
   [音色セレクター] スイッチは、左側からそれぞれ**No.17〜No.24**の曲に対応しています。
   選んだ曲が始まり、No.24まで順番に演奏します。それが終わるとNo.17に戻り、演奏を繰り返し行います。
3. **デモ演奏を終えるときは、[デモ] スイッチを押します。**
   デモモードから抜けます。

バンクDの曲を選ぶときは

1. **[デモ] スイッチを4回押します。**
   [音色セレクター] スイッチのランプが**2つずつ順番に点滅**を繰り返します。
2. **[音色セレクター] スイッチを押して、デモ演奏を選びます。**
   [音色セレクター] スイッチは、左側からそれぞれ**No.25〜No.32**の曲に対応しています。
   選んだ曲が始まり、No.32まで順番に演奏します。それが終わるとNo.25に戻り、演奏を繰り返し行います。
3. **デモ演奏を終えるときは、[デモ] スイッチを押します。**
   デモモードから抜けます。

3. デモ演奏を一時停止するときは

1. **演奏中に [一時停止] スイッチを押します。**
   演奏が一時停止します。
2. **再度 [一時停止] または [スタート/ストップ] スイッチを押すと、続きから演奏を再開します。**

4. デモ曲に合わせて練習する

右手と左手を別々に練習するときは

バンクB〜Dのデモ曲は、右手または左手のパートのどちらかをデモ演奏させ、もう一方のパートの音を小さくして自分で演奏することができます。

1. **No.9〜No.32の中から曲を選びます。**
   演奏が始まります。
2. **左手のパートの音量を小さくするときは、[パート1] スイッチを押し、右手のパートの音量を小さくするときは、[パート2] スイッチを押します。**
   押したスイッチのランプが点滅します。
   曲に合わせて演奏してください。

MeMO 小さくした音量を調整することができます。
デモ演奏中に、[ブリリアンス] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの "エレクトリックオルガン" を押すと、音量がさらに小さくなります。また、[ブリリアンス] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの "ストリングス" を押すと、音量が大きくなります。

3. **左右のパートを同じ音量に戻すときは、ランプの点滅しているパートのスイッチを押します。**
   ランプが点灯に変わります。

5. デモ演奏のテンポを変えるときは

バンクB〜Dのデモ曲は、曲のテンポを変えることができます。

○ **演奏中または一時停止のときに、[テンポ] スライダーで調整します (☞p.13)。**

デモ演奏のテンポは [テンポ] スライダーの目盛りの数字とは一致しません。

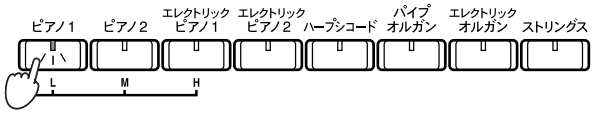
デモ曲は、それぞれでテンポが設定されていますので、1つの曲でテンポを調整しても、曲が変わると、その曲で設定されているテンポになります。

弾いてみましょう

1. 音色を選ぶ

○ **[音色セレクター] スイッチを 1 つ押して、音色を選びます。**

選んだ [音色セレクター] スイッチのランプが点灯します。



ピアノ1	臨場感あふれる最高峰のグランドピアノの音
ピアノ 2	ジャンルを問わずオールマイティに弾けるグランドピアノの音
エレクトリックピアノ1	軽やかで透明感のあるエレクトリックピアノの音
エレクトリックピアノ2	アタック感があって切れの良いエレクトリックピアノの音
ハープシコード	クラシックな趣きのあるリアルなハープシコードの音
パイプオルガン	荘厳なパイプオルガンの音
エレクトリックオルガン	ファンキーでポップなオルガンの音
ストリングス	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

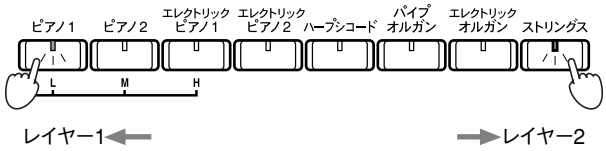
2つの音色を組み合わせて演奏するときは（レイヤー機能）

1つの鍵盤を弾いたときに、2つの音色（たとえばピアノ1とストリングス）を同時に鳴らして、演奏することができます。これを**レイヤー機能**といいます。

1. **2つの [音色セレクター] スイッチを同時に押します。**

   2つの [音色セレクター] スイッチのランプが点灯します。

   [音色セレクター] スイッチで、点灯している2つのランプのうち、左側の音色を**レイヤー1**、右側の音色を**レイヤー2**といいます。



   レイヤー時の同時発音数は、ピアノ1以外の音色を選んだときには32音、ピアノ1の音色を選んだときには21音になります。

2. **レイヤー機能を解除するときは、[音色セレクター] スイッチを 1 つ押します。**

2つの音色の音量バランスを変えるときは

選んだ2つの音色の音量バランスを調整することができます。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、「9. 設定を記憶する」（☞p.16）を参照してください。

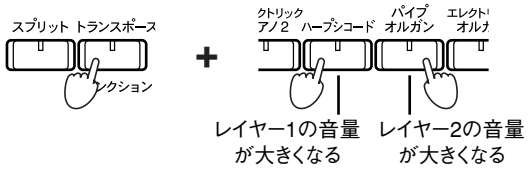
1. **[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、[音色セレクター] スイッチの "ハープシコード" または "パイプオルガン" を押して、音量のバランスを調整します。**

○ **レイヤー1**

[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、[音色セレクター] スイッチの "ハープシコード" を繰り返し押すと、**音量が大きく**なります。

○ **レイヤー2**

[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、[音色セレクター] スイッチの "パイプオルガン" を繰り返し押すと、**音量が大きく**なります。



2. **[ボリューム] スライダーで全体の音量を調整してください。**

2つの音色のオクターブを変えるときは

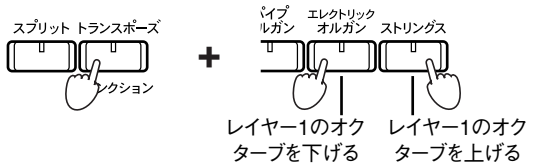
レイヤー1、2は、それぞれ±1オクターブを上下させることができます。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、「9. 設定を記憶する」（☞p.16）を参照してください。

○ **レイヤー1**

[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、[音色セレクター] スイッチの "エレクトリックオルガン" を押すと、**オクターブ下がり**ます。

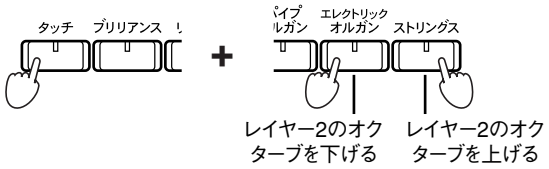
[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、[音色セレクター] スイッチの "ストリングス" を押すと、**オクターブ上がり**ます。



○ **レイヤー2**

[タッチ] スイッチを押しながら、[音色セレクター] スイッチの "エレクトリックオルガン" を押すと、**オクターブ下がり**ます。

[タッチ] スイッチを押しながら、[音色セレクター] スイッチの "ストリングス" を押すと、**オクターブ上がり**ます。



鍵盤の左右に違う音色を設定して演奏するときは（スプリット機能）

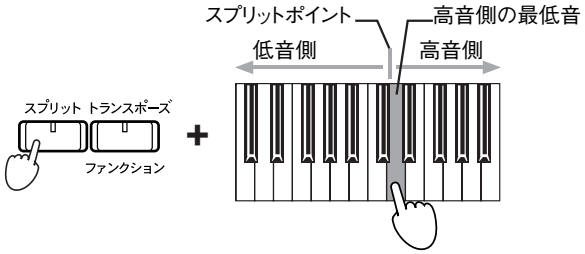
鍵盤の低音側と高音側に、それぞれ違う音色を設定して演奏することができます。これを**スプリット機能**といいます。

1. **［スプリット］スイッチを押します。**
   スプリット・ポイントは**F#3**になり、［スプリット］スイッチのランプが点灯します。

   低音側はベース音色になります。
   高音側は［スプリット］スイッチを押す前の音色になります。F#3は高音側になります。

MeMO レイヤー機能時に［スプリット］スイッチを押したときは、レイヤー1に選んでいた音色が高音側になります。

2. **スプリット・ポイントを変更するときは、［スプリット］スイッチを押しながら、境目にする鍵盤を押します。**
   押した鍵盤がスプリット・ポイントになり、高音側になります。



3. **音色を選びます。**

○ **高音側**
［音色セレクター］スイッチを押して音色を選択します。
［音色セレクター］スイッチのランプが点灯します。

○ **低音側**
ベース音色以外にするときは、高音側に選んだ音色の［音色セレクター］スイッチを押しながら、低音側に選ぶ音色の［音色セレクター］スイッチを押します。
［音色セレクター］スイッチのランプは、高音側と低音側の両方が点灯します。

ベース音色に戻すときは、低音側に選んだ［音色セレクター］スイッチを押します。
低音側はベース音色に戻ります。ただしこのとき、高音側にも押したスイッチの音色が選ばれますので、必要に応じて、高音側の音色を選択してください。

4. **スプリット機能を解除するときは、［スプリット］スイッチを押します。**
   ［スプリット］スイッチのランプが消灯します。

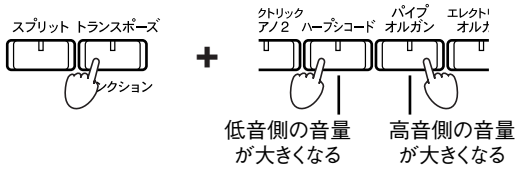
2つの音色の音量バランスを変えるときは

選んだ2つの音色の音量バランスを調整することができます。

1. **［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“ハープシコード”または“パイプオルガン”を押して、音量のバランスを調整します。**

○ **低音側**
［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“ハープシコード”を繰り返し押すと、**音量が大きく**なります。

○ **高音側**
［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“パイプオルガン”を繰り返し押すと、**音量が大きく**なります。



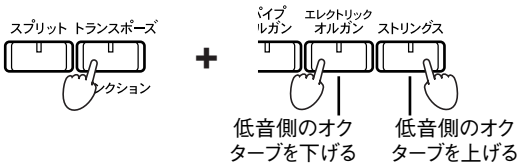
2. **［ボリューム］スライダーで全体の音量を調整してください。**

2つの音色のオクターブを変えるときは

低、高音側は、±1オクターブを上下させることができます。スプリットにした直後は、それぞれの音色で設定されているオクターブが選ばれます。

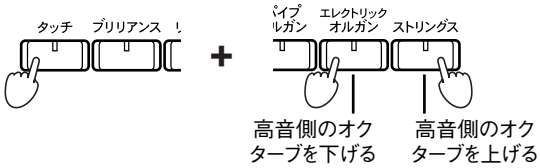
○ **低音側**
［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“エレクトリックオルガン”を押すと、**オクターブ下がり**ます。

［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“ストリングス”を押すと、**オクターブ上がり**ます。



○ **高音側**
［タッチ］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“エレクトリックオルガン”を押すと、**オクターブ下がり**ます。

［タッチ］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“ストリングス”を押すと、**オクターブ上がり**ます。



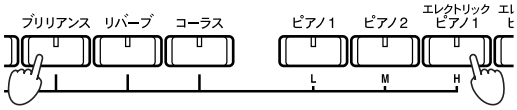
2. 音に効果を加える

音の明るさを調整するときは

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、「9. 設定を記憶する」（☞p.16）を参照してください。

○ **［ブリリアンス］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“ピアノ1/L”、“ピアノ2/M”、“エレクトリックピアノ1/H”の中から1つを押して、音の明るさを選びます。**

“ピアノ1/L”または“エレクトリックピアノ1/H”を選んだときは、［ブリリアンス］スイッチのランプが点灯します。



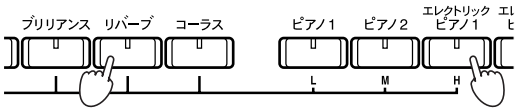
ピアノ1/L	やわらかな音色
ピアノ2/M	標準の音色
エレクトリックピアノ1/H	明るい音色

音に残響を加えるときは

音に残響と深みを加え、コンサートホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。これを**リバーブ効果**といいます。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、「9. 設定を記憶する」（☞p.16）を参照してください。

1. **［リバーブ］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“ピアノ1/L”、“ピアノ2/M”、“エレクトリックピアノ1/H”の中から1つを押して、リバーブの深さを選びます。**



ピアノ1/L	浅いリバーブ効果
ピアノ2/M	標準のリバーブ効果
エレクトリックピアノ1/H	深いリバーブ効果

2. **リバーブ効果をオフにするときは、［リバーブ］スイッチを押します。**

［リバーブ］スイッチのランプが消灯します。

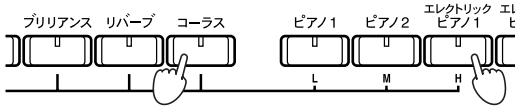
ただし、ピアノ1、2の音色では、アコースティックピアノの弦の響きをシミュレートするためリバーブをオフにしても、わずかにリバーブ効果が残ります。

音に広がりを加えるときは

音にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。これを**コーラス効果**といいます。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、「9. 設定を記憶する」（☞p.16）を参照してください。

1. **［コーラス］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“ピアノ1/L”、“ピアノ2/M”、“エレクトリックピアノ1/H”の中から1つを押して、コーラスの深さを選びます。**



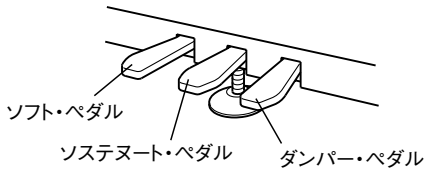
ピアノ1/L	浅いコーラス効果
ピアノ2/M	標準のコーラス効果
エレクトリックピアノ1/H	深いコーラス効果

2. **コーラス効果をオフにするときは、［コーラス］スイッチを押します。**

［コーラス］スイッチのランプが消灯します。

3. ペダルを使う

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類のペダルがあります。これらを使って、演奏をより効果的に表現することができます。



ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフ・ペダル機能）。

ソステヌート・ペダル

ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に、弾いた音に対してはダンパー効果はかかりません。

ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで、音のやわらかさを変化させることができます（ハーフ・ペダル機能）。

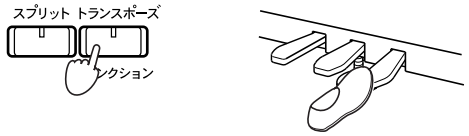
レイヤー、スプリット機能時のペダルの設定

レイヤー、スプリット機能時に、ダンパー・ペダル効果をかける音色を選ぶことができます。

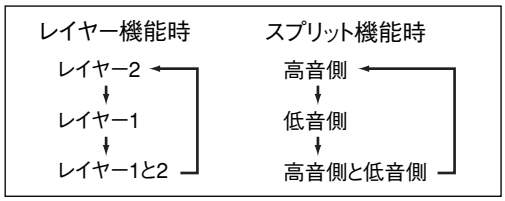
MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、「9. 設定を記憶する」（☞p.16）を参照してください。

レイヤー機能時、スプリット機能（低音側に音色を選択）時

1 **［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、ダンパー・ペダルを踏みます。**



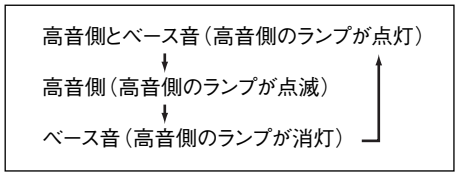
ダンパー・ペダルを踏むたびに、下のように効果をかける音色が替わります。
このとき、選択した音色の［音色セレクター］スイッチのランプが点灯し、どの音色にダンパー・ペダルの効果をかけるのかを知らせます。



2 **設定が終わったら、［トランスポーズ/ファンクション］スイッチから手を離してください。**

スプリット機能（低音側がベース音）時

1 **［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、ダンパー・ペダルを踏みます。**
ダンパー・ペダルを踏むたびに、下のように効果をかける音色が替わります。
このとき、高音側に選択した音色の［音色セレクター］スイッチのランプの点灯方法が変化し、ダンパーペダルの効果をかける音色を知らせます。



2 **設定が終わったら、［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを離してください。**

4. メトロノームに合わせて演奏する

テンポに合わせて演奏するときは、メトロノームを使うと便利です。このメトロノームは、演奏を録音するときの拍子やテンポの基準にもなります。

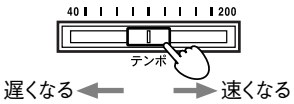
メトロノームを鳴らすときは

1. **［メトロノーム］スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。**
［メトロノーム］スイッチのランプが点灯します。

2. **メトロノームをストップするときは、もう一度［メトロノーム］スイッチを押します。**
［メトロノーム］スイッチのランプが消灯します。

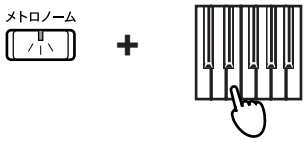
テンポを設定するときは

1. **［メトロノーム］スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。**
［メトロノーム］スイッチのランプが点灯します。
2. **［テンポ］スライダーを動かして、テンポを調整してください。**
設定できる範囲は、♩＝40〜200です。



［テンポ］スライダーの目盛りと実際のテンポが一致しないことがあります。

テンポを正確に設定するときは、［メトロノーム］スイッチを押しながら、テンポの値に対応した鍵盤を1つ押します（☞p.6）。

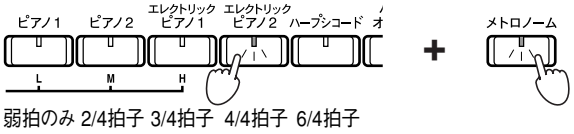


拍子を設定するときは

電源をオンにした直後に［メトロノーム］スイッチを押したときは、メトロノームの拍子は**4/4拍子**で**弱拍のみ**になり、［音色セレクター］スイッチの“ピアノ1/L”と“エレクトリックピアノ2”のLEDが点灯します。この拍子は変更することができます。

1. **［メトロノーム］スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。**
［メトロノーム］スイッチのランプが点灯します。

2. **[メトロノーム] スイッチを押しながら、[音色セレクター] スイッチを押します。**
押した [音色セレクター] スイッチのランプが点灯します。
[音色セレクター] スイッチの "ピアノ2/M" から "ハープシコード" を押してそれぞれの拍子を選択すると、拍子の**1拍目が強拍**になります。
[音色セレクター] スイッチの "ピアノ1/L" を押すと、弱拍のみになって、拍子が指定されません。

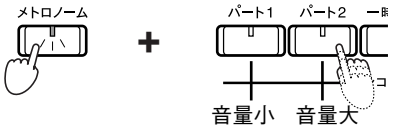


メトロノームの音量を調整するときは

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、「9. 設定を記憶する」（☞p.16）を参照してください。

1. **[メトロノーム] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。**
[メトロノーム] スイッチのランプが点灯します。

2. **[メトロノーム] スイッチを押しながら、[パート1] スイッチまたは [パート2] スイッチを押して、音量を調整します。**
[メトロノーム] スイッチを押しながら [パート1] スイッチを繰り返し押すと、音量が小さくなります。
[メトロノーム] スイッチを押しながら [パート2] スイッチを繰り返し押すと、音量が大きくなります。



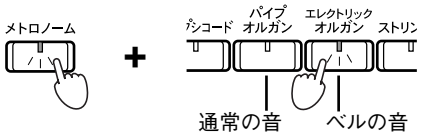
3. **もとの音量に戻すときは、[メトロノーム] スイッチを押しながら [パート1] スイッチと [パート2] スイッチを同時に押します。**

強拍をベルの音にするときは

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、「9. 設定を記憶する」（☞p.16）を参照してください。

1. **[メトロノーム] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。**
[メトロノーム] スイッチのランプが点灯します。

2. **[メトロノーム] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの "エレクトリックオルガン" を押します。**
"エレクトリックオルガン" のランプが点灯して、強拍がベルの音になります。



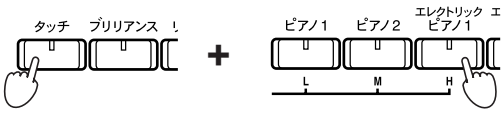
3. **強拍を通常の音に戻すときは、[メトロノーム] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの "パイプオルガン" を押します。**
"パイプオルガン" のランプが点灯します。

5. 鍵盤のタッチ感を変える

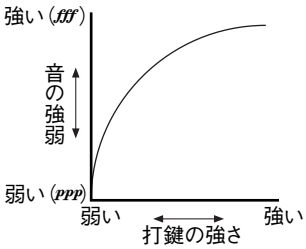
鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これを**タッチ・コントロール機能**といいます。

電源をオンにしたときは、ノーマルなタッチにが選ばれます。

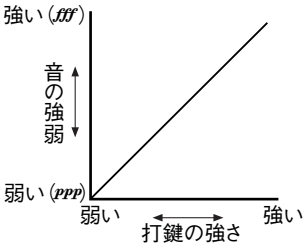
1. **[タッチ] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの "ピアノ1/L"、"ピアノ2/M"、"エレクトリックピアノ1/H" のうち、1つを押してタッチ感を選びます。**
"ピアノ1/L" または "エレクトリックピアノ1/H" を選んだときは、[タッチ] スイッチのランプが点灯します。



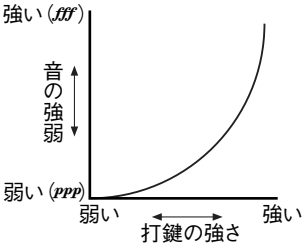
ピアノ1/L: ライトなタッチ（弱く弾いても強音が出せる）



ピアノ2/M: ノーマルなタッチ



エレクトリックピアノ1/H: ヘビーなタッチ（強く弾かないと強音が出せない）

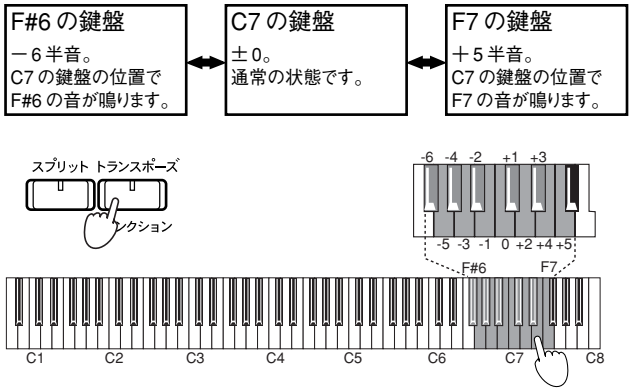


6. キーを変更する（移調）

キーを変える（移調する）ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これを**トランスポーズ機能**といいます。
11半音の範囲で設定することができます。

1. **［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、F＃6～F7から1つの鍵盤を押します。**
   C7以外の鍵を押えると［トランスポーズ/ファンクション］スイッチのランプが点灯し、トランスポーズされたことを示します。

   押さえた鍵の音の高さがC7鍵の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。

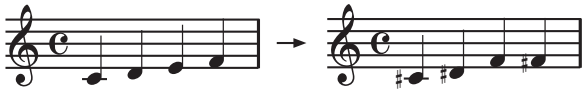


2. **もとの設定に戻すときは、［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、C7鍵を押します。**
   または電源をオンにし直しても、もとの設定に戻ります。

曲の調子を半音上げて演奏するときは

Cの鍵を押さえたときにC＃の音が鳴るようにします。

○ **［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながらC＃7の鍵盤を押します。**
半音上げたときに左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



キーがBbの曲を、Gの指使いに直して演奏するときは

Bbの音は、Gの音から見て短3度の（3半音高い）音にあたります。したがって、C7の鍵盤を押したときにC7よりも3半音高いD＃7の音が出るようにします。

○ **［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながらD＃7の鍵盤を押します。**

7. 音の高さを微調整する

ピッチ（音の高さ）の微調整を行ないます。
他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。

±12.5Hz（427.5Hz～452.5Hz）までずらすことができます。

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、「9. 設定を記憶する」（☞p.16）を参照してください。

ピッチを上げるときは

○ **［タッチ］スイッチを押しながら［パート2］スイッチを押します。**
一回押すたびに約0.5Hzずつピッチが高くなります。

ピッチを下げるときは

○ **［タッチ］スイッチを押しながら［パート1］スイッチを押します。**
一回押すたびに約0.5Hzずつピッチが低くなります。

もとのピッチに戻すときは

○ **［タッチ］スイッチを押しながら、［パート1］と［パート2］スイッチを同時に押します。**
もとのピッチ（A4=440Hz）に戻ります。

8. 音律を選ぶ

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、**キルンベルガー**と**ヴェルクマイスター**という古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の3種類の音律が選択できます。

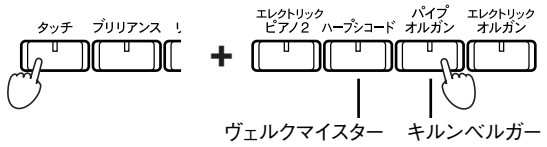
ヴェルクマイスター
ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターIIIスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由な移調を目的として考案されたものです。

キルンベルガー
18世紀初めに、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーIIIスケールです。これは主にハープシコードのチューニングに使用されます。

平均律
現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

音律を変更するときは

○ **[タッチ] スイッチを押しながら、[音色セレクター] スイッチの "ハープシコード" または "パイプオルガン" を押します。**



平均律に戻すときは

○ **[タッチ] スイッチを押しながら、ランプが点灯している [音色セレクター] スイッチを押します。**
ランプは消灯します。
または電源をオンにし直しても、平均律に戻すことができます。

MeMO ピアノ1、ピアノ2の音色では、ストレッチ・チューニングを用いています。**ストレッチ・チューニング**は、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。

9. 設定を記憶する

今までいろいろな設定を紹介してきましたが、以下の設定は電源をオフにしても本機内に記憶することができます。

一度の操作で、これらの設定が記憶されます。

・ブリリアンス効果
音色ごと（レイヤー時は音色の組み合わせごと）

・リバーブ効果
音色ごと（レイヤー時は音色の組み合わせごと）

・コーラス効果
音色ごと（レイヤー時は音色の組み合わせごと）

・レイヤーの音量
音色の組み合わせごと

・レイヤーのオクターブ
音色の組み合わせごと

・レイヤー / スプリット時のペダル設定
音色の組み合わせごと

・ピッチの微調整

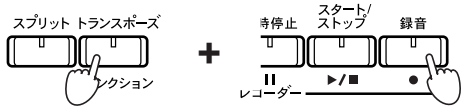
・メトロノームの音量

・メトロノームの強拍の音色

・演奏データ再生時の各パートの音量バランス

録音した演奏データを消去しても、演奏データ再生時の各パートの音量バランスの設定は消去されません。演奏データを録音すると、各パートの音量バランスは、すでに記憶されている設定に従いますので、必要に応じてこれらの音量バランスを設定し直したり、設定を記憶し直してください。

○ **[トランスポーズ / ファンクション] スイッチを押しながら [録音] スイッチを押します。**



10. 工場出荷時の設定に戻す

音色を選んでいろいろな設定をしたあとで、もとの設定に戻したいときは以下の操作を行ってください。

この操作を行うと、録音したデータは消えませんが、それ以外の設定が工場出荷時の状態に戻ります。録音したデータを消去するときは、「3. 演奏データを消去します」（☞p.18）を参照してください。

工場出荷時の設定に戻してもよいかどうかを確認してから操作を行ってください。

1. **電源をオフにします。**
2. **鍵盤のC8（一番高いドの音）を押しながら電源をオンにします。**
   工場出荷時の設定に戻り、スイッチのLEDが左側から右側へ素早く点灯します。

演奏を録音/再生してみましょう

本機のレコーダーは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生することができます。

録音パートは2つあります。別の曲を録音することはもちろん、同じ曲を右手、左手で分けて録音し、2つのパートを同時に再生することもできます。

録音されているパートに録音すると、データが上書きされて、以前の演奏データは消去されますので、録音してもよいかどうかを確認してから操作を行ってください。

MeMO 録音したデータは、電源をオフにしたり、工場出荷時の設定に戻しても記憶されます。

1. 演奏を録音する

演奏を録音するときは

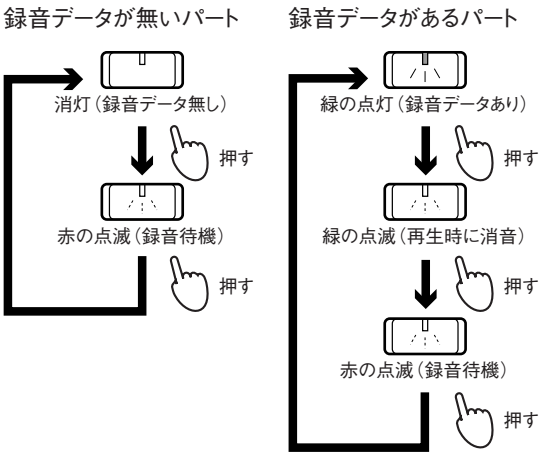
1. **[音色セレクター] スイッチを押して、録音時の音色を選びます。**

2. **[録音] スイッチを押します。**
ランプが点灯します。

3. **[パート1]、[パート2] スイッチのランプで、パートの録音状態を確認してください。**
録音されているときは、ランプが緑の点灯になります。

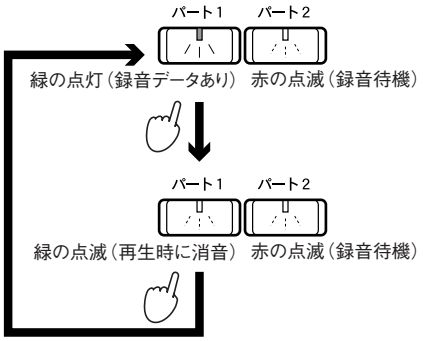
4. **録音するパートを1つ選び、そのスイッチを押し、ランプを赤の点滅にします。**
赤の点滅は**録音待機**の状態です。

MeMO スイッチを何度か押すと、スイッチの点灯が以下のように切り替わります。

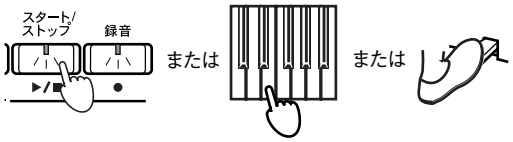


2つのパートを同時に録音待機の状態に設定できません。1つのパートが録音待機の場合、他のパートにデータが無いときは、そのスイッチを押しても変化しません。しかし、他のパートにデータがあるときは、そのスイッチを押すと再生と消音が切り替わります。

例 パート1に録音データがあり、パート2が録音待機状態のとき



5. **[スタート/ストップ] スイッチ、鍵盤、ペダルのうち、1つを押します。**
[スタート/ストップ] スイッチを押すと、2小節のカウントの後に録音が始まります。
他は、押すと同時に録音が始まります。
また、4で選択したパートと同じMIDIチャンネルのMIDIメッセージを受信（☞p.19）しても録音が始まります。



録音中は [スタート/ストップ] スイッチのランプが拍子に合わせて、1拍目は赤色に、その他の拍は緑色に点滅します。
録音中は [音色セレクター] スイッチを押して音色を切り替えることもできます。
音色を切り替えながら録音すると、音色の切り替えもデータとして記録され、再生するときに音色が切り替わります。

ペダル設定の変更の情報（☞p.13「レイヤー、スプリット機能時のペダルの設定」）は、録音することができません。

MeMO メトロノームを鳴らしながら（☞p.13）、テンポに合わせて録音することができます。

6. **録音を終えるときは、[スタート/ストップ] スイッチを押します。**
録音したデータを本機のメモリーへ保存している間は、[録音] スイッチのランプが点滅します。保存が終わると、自動的に最初の小節に戻ります。

MeMO 録音中に [一時停止] スイッチを押すと（[一時停止] スイッチのランプが点灯）、録音を一時停止します。
録音を再開するときは、最初に [録音] スイッチを押してから、録音するパートのスイッチを2回押して、録音待機状態にします。

録音待機状態で、[スタート/ストップ] スイッチまたは [一時停止] スイッチを押すと、2小節のカウント後に、停止した小節の最初から録音が始まります。
録音待機状態で鍵盤を弾くと、カウントが無く一時停止した位置から録音を開始します。

一時停止後に録音を再開する場合、つなぎめがきれいに録音されないことがあります。この機能を使うときは、一時停止前はメトロノームを鳴らしながら録音し、演奏の音が止まったところで拍に合わせて一時停止することをお勧めします。なお、録音を再開すると、停止した拍からスタートします。

2. 録音した曲を聴く

録音した曲を再生するときは

1. **[パート1]、[パート2] スイッチのランプで、パートの録音状態を確認してください。**
   録音されているときは、ランプが緑の点灯になります。

   再生しないパートは、そのスイッチを押して、ランプを緑の点滅にします。

2. **[スタート/ストップ] スイッチを押すと、再生が始まります。**
   再生時は、[スタート/ストップ] スイッチのランプが拍子に合わせて点滅します。1拍目は赤色、その他の拍は緑色です。
   [テンポ] スライダーなどで、再生するテンポを変えることができます（☞p.13）。

3. **再生を終えるときは、[スタート/ストップ] スイッチを押します。**
   再生が終わり、自動的に最初の小節に戻ります。

MeMO 再生中に [一時停止] スイッチを押す（[一時停止] スイッチのランプが点灯）と、演奏を一時停止することができます。
演奏を再開するときは、[スタート/ストップ] スイッチまたは [一時停止] スイッチを押します。

録音したデータをすべて再生し終えると、自動的に停止して、[スタート/ストップ] スイッチのランプが消灯します。

2つのパートの音量バランスを変えるときは

MeMO この設定は、電源をオフにしても本機内に記憶することができます。詳しくは、「9. 設定を記憶する」（☞p.16）を参照してください。

○ **パート1とパート2を同時に再生しているときに、[ブリリアンス] スイッチを押しながら、音量を大きくするパートのスイッチ（[パート1] または [パート2] スイッチ）を何回か押します。**
もとに戻すときは、[ブリリアンス] スイッチを押しながら、[パート1] スイッチと [パート2] スイッチを同時に押してください。

演奏を繰り返して再生するときは

録音した曲全体を、繰り返して演奏させることができます。

○ **演奏中に [トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押します。**
[トランスポーズ/ファンクション] スイッチのランプが点滅し、演奏を繰り返します。
演奏を停止するときは、[スタート/ストップ] スイッチを押します。このとき、演奏の繰り返しも解除されます。

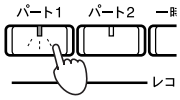
3. 演奏データを消去します

演奏データを消去するときは

1. **演奏の停止時に、[トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押しながら、データを消したいパートのスイッチを押します。**
   [トランスポーズ/ファンクション] スイッチと、パートのスイッチのランプが赤と緑の交互に点滅し、演奏データ消去の待機状態になります。

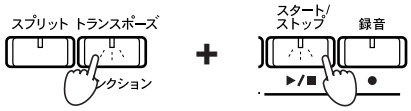
   演奏データ消去の待機状態を解除するときは、ここで [トランスポーズ/ファンクション] スイッチを押します。

2. **1で押したパートのスイッチを再び押します。**
   消去中はランプが点滅します。点滅が終わると演奏データは消去されます。

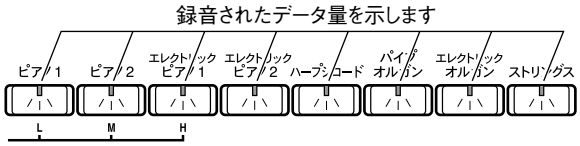


録音したデータ量を知りたいときは

○ **[トランスポーズ/ファンクション] スイッチと [スタート/ストップ] スイッチを同時に押し続けます。**



録音した演奏のデータ量が、[音色セレクター] スイッチのランプの点灯数で表示されます。データ量が大きくなると、ランプの点灯数が多くなります。



録音中に、録音可能な領域が、メモリーの10パーセント以下になると、[録音] スイッチのランプが点滅します。

10パーセント以下とは、録音できる音数が1,400未満になったとき、または録音した小節が900小節（最大999小節録音可）を越えたことをいいます。

MeMO 残しておきたい演奏データは、市販のデータファイラーを使って演奏データを保存、管理することをお勧めします。（☞p.22）

MIDI機器との接続

MIDI（ミディ）とは?

MIDI（Musical Instrument Digital Interface）は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。
本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えやダンパー・ペダルなどの効果を、一緒にコントロールできます。
また、他のMIDIキーボードやシーケンサー（自動演奏装置）から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。複数のMIDI機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。その他には、本機のレコーダーのデータを保管するときに、MIDIを使って行います。
ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方は、わかりやすく説明した本も、数多く出版されていますので、ご利用ください。

MIDIの接続方法

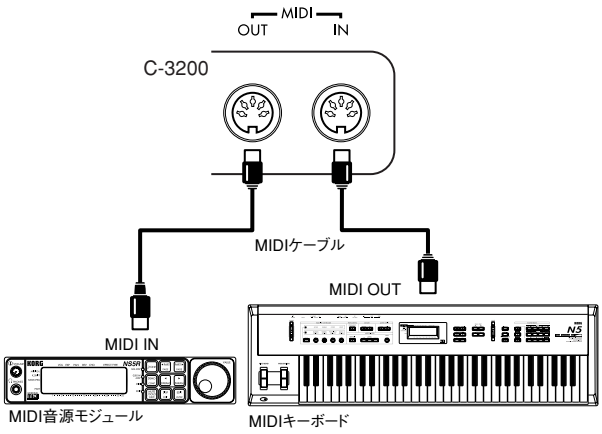
MIDI情報をやりとりするには、市販のMIDIケーブルを使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は２種類あります。

MIDI IN端子

MIDI情報を受信します。
外部MIDI機器（MIDIキーボードやシーケンサーなど）で、本機の音を鳴らすなどのコントロールができます。本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子を、MIDIケーブルで接続します。

MIDI OUT端子

MIDI情報を送信します。
本機を弾いたときなどに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器をコントロールできます。本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。

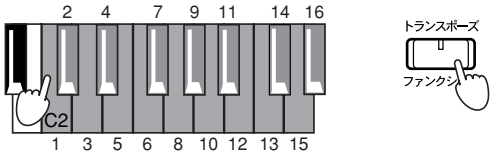


MIDIチャンネル

接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器のMIDIチャンネルを同じ番号に設定します。MIDIチャンネルには1～16があります。

電源をオンにした直後は、自動的にパート1がチャンネル1に、パート２がチャンネル２に設定されます。

○ **パート１のチャンネルを設定するときは、［トランスポーズ / ファンクション］スイッチを押しながら、設定するMIDIチャンネルに対応したC2～D#3の１つの鍵を押します。**



パート１のMIDIチャンネルを設定すると、パート２は自動的に設定され、パート１のMIDIチャンネルに+1したものになります。ただし、パート１でMIDIチャンネルを16に設定したときは、パート2のMIDIチャンネルは1になります。

本機をマルチティンバー音源として使うときは

本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パートマルチティンバー音源として動作します。

1. **本機のMIDI INとシーケンサーなどのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。**
2. **接続したシーケンサーなどからMIDIデータを送信します。**
   接続するシーケンサーなどからの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。
   演奏データと一緒にプログラムチェンジメッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。ただし、該当するMIDIチャンネルのプログラムチェンジがイネーブルになっているときに限ります。また、プログラムチェンジやコントロールチェンジのキャンセルはMIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定できます。

マルチティンバー音源として使用する場合、本機のパネル上で選択している音色を、設定しているMIDIチャンネルのデータで鳴らすことはできません。

ローカルオン・オフの設定

本機の鍵盤を弾いたときに内蔵音源は鳴らさないでMIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック（シーケンサーが受信したデータを送り返す動作）を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合は、本機をローカルオフに設定します。

通常はローカルオンに設定し、鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

電源をオンにした直後は、自動的にローカルオンに設定されます。

○ **［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら［音色セレクター］スイッチの［ピアノ1/L］を押します。**
押すたびにオン/オフが切り替わります。

ローカルオン	［ピアノ1/L］のランプ点灯
ローカルオフ	［ピアノ1/L］のランプ消灯

プログラムチェンジ

接続したMIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えたり、接続したMIDI機器から、本機のプログラム番号を切り替えます。

プログラムチェンジの送信

接続した外部MIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えます。

○ **［音色セレクター］スイッチで音色を選ぶと、表のように0～99のMIDIプログラムチェンジナンバーを送信します。**

プログラムチェンジの受信

外部からプログラムチェンジナンバーを受信すると、下の表のように、本機のマルチティンバーの音色が切り替わります。

本機は、0～99のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信したときに音色が切り替わります。外部MIDI機器より100以上のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信しても本機の音色は切り替わりません。

	PC#	音色
シングル	00	ピアノ1
	01	ピアノ2
	02	エレクトリックピアノ1
	03	エレクトリックピアノ2
	04	ハープシコード
	05	パイプオルガン
	06	エレクトリックオルガン
	07	ストリングス
レイヤー	PC#	音色（レイヤー1, レイヤー2）
	08	ピアノ1, ピアノ2
	09	ピアノ1, エレクトリックピアノ1
	10	ピアノ1, エレクトリックピアノ2
	11	ピアノ1, ハープシコード
	12	ピアノ1, パイプオルガン
	13	ピアノ1, エレクトリックオルガン
	14	ピアノ1, ストリングス
	15	ピアノ2. エレクトリックピアノ1
	16	ピアノ2, エレクトリックピアノ2
	17	ピアノ2, ハープシコード
	18	ピアノ2, パイプオルガン
	19	ピアノ2, エレクトリックオルガン
	20	ピアノ2, ストリングス
	21	エレクトリックピアノ1, エレクトリックピアノ2
	22	エレクトリックピアノ1, ハープシコード
	23	エレクトリックピアノ1, パイプオルガン
	24	エレクトリックピアノ1, エレクトリックオルガン
	25	エレクトリックピアノ1, ストリングス
	26	エレクトリックピアノ2, ハープシコード
	27	エレクトリックピアノ2, パイプオルガン
	28	エレクトリックピアノ2, エレクトリックオルガン
	29	エレクトリックピアノ2, ストリングス
	30	ハープシコード, パイプオルガン
	31	ハープシコード, エレクトリックオルガン
	32	ハープシコード, ストリングス
	33	パイプオルガン, エレクトリックオルガン
	34	パイプオルガン, ストリングス
	35	エレクトリックオルガン, ストリングス
スプリット	PC#	音色（低音側, 高音側）
	36	ピアノ1, ピアノ2
	37	ピアノ1, エレクトリックピアノ1
	38	ピアノ1, エレクトリックピアノ2
	39	ピアノ1, ハープシコード
	40	ピアノ1, パイプオルガン
	41	ピアノ1, エレクトリックオルガン
	42	ピアノ1, ストリングス
	43	ピアノ2, ピアノ1
	44	ピアノ2, エレクトリックピアノ1

スプリット	PC#	音色（低音側，高音側）
	45	ピアノ2，エレクトリックピアノ2
	46	ピアノ2，ハープシコード
	47	ピアノ2，パイプオルガン
	48	ピアノ2，エレクトリックオルガン
	49	ピアノ2，ストリングス
	50	エレクトリックピアノ1，ピアノ1
	51	エレクトリックピアノ1，ピアノ2
	52	エレクトリックピアノ1，エレクトリックピアノ2
	53	エレクトリックピアノ1，ハープシコード
	54	エレクトリックピアノ1，パイプオルガン
	55	エレクトリックピアノ1，エレクトリックオルガン
	56	エレクトリックピアノ1，ストリングス
	57	エレクトリックピアノ2，ピアノ1
	58	エレクトリックピアノ2，ピアノ2
	59	エレクトリックピアノ2，エレクトリックピアノ1
	60	エレクトリックピアノ2，ハープシコード
	61	エレクトリックピアノ2，パイプオルガン
	62	エレクトリックピアノ2，エレクトリックオルガン
	63	エレクトリックピアノ2，ストリングス
	64	ハープシコード，ピアノ1
	65	ハープシコード，ピアノ2
	66	ハープシコード，エレクトリックピアノ1
	67	ハープシコード，エレクトリックピアノ2
	68	ハープシコード，パイプオルガン
	69	ハープシコード，エレクトリックオルガン
	70	ハープシコード，ストリングス
	71	パイプオルガン，ピアノ1
	72	パイプオルガン，ピアノ2
	73	パイプオルガン，エレクトリックピアノ1
	74	パイプオルガン，エレクトリックピアノ2
	75	パイプオルガン，ハープシコード
	76	パイプオルガン，エレクトリックオルガン
	77	パイプオルガン，ストリングス
	78	エレクトリックオルガン，ピアノ1
	79	エレクトリックオルガン，ピアノ2
	80	エレクトリックオルガン，エレクトリックピアノ1
	81	エレクトリックオルガン，エレクトリックピアノ2
	82	エレクトリックオルガン，ハープシコード
	83	エレクトリックオルガン，パイプオルガン
	84	エレクトリックオルガン，ストリングス
	85	ストリングス，ピアノ1
	86	ストリングス，ピアノ2
	87	ストリングス，エレクトリックピアノ1
	88	ストリングス，エレクトリックピアノ2
	89	ストリングス，ハープシコード
	90	ストリングス，パイプオルガン
	91	ストリングス，エレクトリックオルガン
	92	ベース，ピアノ1
	93	ベース，ピアノ2
	94	ベース，エレクトリックピアノ1
	95	ベース，エレクトリックピアノ2
	96	ベース，ハープシコード
	97	ベース，パイプオルガン
	98	ベース，エレクトリックオルガン
	99	ベース，ストリングス

プログラムチェンジキャンセル

プログラムチェンジの情報を送受信しないときはプログラムチェンジをキャンセルに、送受信するときはイネーブルにします。

電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

○ **［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの［ピアノ2/M］を押します。**

押すたびにキャンセル・イネーブルが切り替わります。

イネーブル	［ピアノ2/M］のランプ点灯
キャンセル	［ピアノ2/M］のランプ消灯

プログラムチェンジキャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてプログラムチェンジキャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、1chのプログラムチェンジキャンセルの設定は記憶されています。

コントロールチェンジ

本機のダンパーペダルなどの情報を、接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からこれらの情報を受信して、本機をコントロールします。
これを送受信するときはコントロールチェンジをイネーブルに、しないときはコントロールチェンジをキャンセルに設定します。

電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

○ **［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの［エレクトリックピアノ1/H］を押します。**

押すたびにキャンセル・イネーブルが切り替わります。

イネーブル	［エレクトリックピアノ1/H］のランプ点灯
キャンセル	［エレクトリックピアノ1/H］のランプ消灯

コントロールチェンジキャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてコントロールチェンジキャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、1chのコントロールチェンジキャンセルの設定は記憶されています。

外部からのコントロールチェンジは、本機のペダルの設定の変更（☞p.13「レイヤー、スプリット機能時のペダルの設定」参照）に関係なく、レイヤー、スプリット機能でも、つねに両方の音色に対して有効となります。

外部シーケンサーを同期させる

本機のレコーダーに合わせて、MIDIで接続した外部シーケンサーやリズムマシンなどを同時に演奏（同期）させることができます。
本機は、マスター機（コントロールする機器）として働きますので、接続したシーケンサーなどはスレーブ機（コントロールされる機器）となります。

1. **MIDIケーブルで、本機のMIDI OUTとシーケンサーなどのMIDI INを接続します。**
2. **接続したシーケンサーなどをスレーブ機として設定します。**
   接続するMIDI機器のMIDIクロックなどの設定は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
3. **本機の［スタート/ストップ］スイッチを押して、同期演奏させます。**
   本機から出力されるMIDIクロック（テンポを合せるための信号）は、本機で設定したテンポ値に従います。

レコーダーのデータを保存するには（データダンプ）

本機のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー（記憶装置）に保存し、必要なときに本機レコーダーに読み込み再生することができます。

データファイラーの取扱説明書をよく読んで、データを消してしまわないように十分注意してください。

演奏データをデータファイラーに保存します

1. **MIDIケーブルで、本機のMIDI OUTとデータファイラーのMIDI INを接続します。**
2. **データファイラーを操作して、本機からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。**
3. **本機の［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“エレクトリックピアノ2”を押します。**
   ［トランスポーズ/ファンクション］スイッチと“エレクトリックピアノ2”のランプが点滅し、データダンプ送信待ちの状態になります。

   操作を中止するときは、本機の［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押します。
4. **［スタート/ストップ］スイッチを押します。**
   データダンプが始まり、演奏データがデータファイラーに送信されます。送信している間は、［スタート/ストップ］スイッチのランプが点滅します。

   送信が終了すると、［スタート/ストップ］スイッチのランプが消灯し、通常の演奏できる状態に戻ります。

データダンプ送信待ちの状態や、データファイラーに演奏データを送信している間は、本機から音が出ません。データの送信が終りデータファイラーにデータが記録されると、通常の演奏できる状態に戻ります。

演奏データをデータファイラーから本機のレコーダーに戻します

1. **MIDIケーブルで、本機のMIDI INとデータファイラーのMIDI OUTを接続します。**
2. **本機の［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押しながら、［音色セレクター］スイッチの“エレクトリックピアノ2”を押します。**
   ［トランスポーズ/ファンクション］スイッチと“エレクトリックピアノ2”のランプが点滅し、データダンプ受信待ちの状態になります。

   操作を中止するときは、本機の［トランスポーズ/ファンクション］スイッチを押します。
3. **データファイラーを操作して、あらかじめ保存しておいた本機の演奏データを送信します。データの送信については、データファイラーの取扱説明書をご覧ください。**
   本機が演奏データを受信します。受信中には［録音］スイッチのランプが点滅します。
   演奏データの受信が終了すると、［録音］スイッチのランプが消灯し、データダンプ受信待ちの前の状態に戻ります。

データファイラーから演奏データを受信している間は、本機から音が出ません。データの受信が終り、演奏データが本機のレコーダー内に元どおりに正しく収まると、通常の演奏できる状態に戻ります。

故障とお思いになる前に

電源が入らない

- 電源コードを本体に差し込んでいますか?
- 電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか?
- 電源スイッチがオンになっていますか?(☞p.7)
- それでも電源が入らない場合は、電源コードをコンセントから抜いて、最寄りのコルグ製品販売店にご相談ください。

音が出ない

- 本機の[ボリューム]スライダーが"0"になっていませんか?(☞p.7)
- ヘッドホン端子にプラグが差し込まれていませんか?
- 選んでいるパートが再生されるように設定していますか?(☞p.18)
- 選んでいるパートに、演奏データは録音されていますか?(☞p.18)
- ローカルオンになっていることを確認してください。(☞p.20)

音が途切れてしまう

- 最大同時発音数を超えています。
  前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的に鳴らす仕組みになっているため、最大同時発音数を超えると音が切れてしまいます。
  ピアノ1以外の音色は、最大同時発音数が64音ですが、ピアノ1は2つのデータを使用しているため、最大同時発音数が32音になります。
  ダンパーペダルを使用するとき、レイヤーにして2つの音色を鳴らすとき、複数音色を使用して録音したデータを再生するときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

ペダルの効果が正しくかからない

- ペダル用コネクターがはずれていませんか?(☞p.26)
- レイヤー、スプリット時に効果が得られないときは、もう一度設定をやり直してください。(☞p.13)

録音できない

- レコーダーの空き領域は十分にありますか?(☞p.18)

送信したMIDIデータに外部機器が応答しない

- MIDIケーブルが正しく接続されていることを確認してください。(☞p.19)
- 受信機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを送信していることを確認してください。(☞p.19)

仕　様

鍵盤	88鍵（A0～C8）、RH2（リアル・ウェイテッド・ハンマー・アクション2）鍵盤
音色	9音色: ピアノ1、ピアノ2、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ハープシコード、パイプオルガン、エレクトリックオルガン、ストリングス、ベース（スプリット時）
音源	ステレオ・サンプリング音源
最大同時発音数	64音
効果	リバーブ（3段階）、コーラス（3段階）、ブリリアンス（3段階）
レコーダー	2パート、最大14,000ノート テンポ、メトロノーム、録音、スタート/ストップ、一時停止
キーボード・モード	シングル、レイヤー、スプリット
音律	3（平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター）
タッチ・コントロール	3段階（ライト、ノーマル、ヘビー）
コントロール	［POWER］スイッチ、［ボリューム］スライダー、［スプリット］スイッチ、［トランスポーズ/ファンクション］スイッチ、［タッチ］スイッチ、［ブリリアンス］スイッチ、［リバーブ］スイッチ、［コーラス］スイッチ、［音色セレクター］スイッチ、［テンポ］スライダー、［メトロノーム］スイッチ、［デモ］スイッチ
ペダル	ダンパー*、ソフト*、ソステヌート（*印: ハーフ・ペダル対応）
接続端子	ヘッドホン×2、MIDI（IN、OUT）
メイン・アンプ	20W×2
スピーカー	16cm×2
電源	AC100V　50Hz/60Hz
消費電力	40 W
外形寸法（W × D × H）	1391 × 462 × 882（mm）（スタンド込みで譜面立てをたたんだ状態）
重量（スタンド含）	45 kg（スタンド込み）
付属品	専用スタンド、電源コード、ヘッドホン、高低自在椅子

※ 仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

・ MIDIは社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
・ Sound Processed with INFINITY™

スタンド（STD-3200）の組み立て方法

⚠ 警告

⚠ ● 必ず２人以上で組み立ててください。

組み立て時の注意

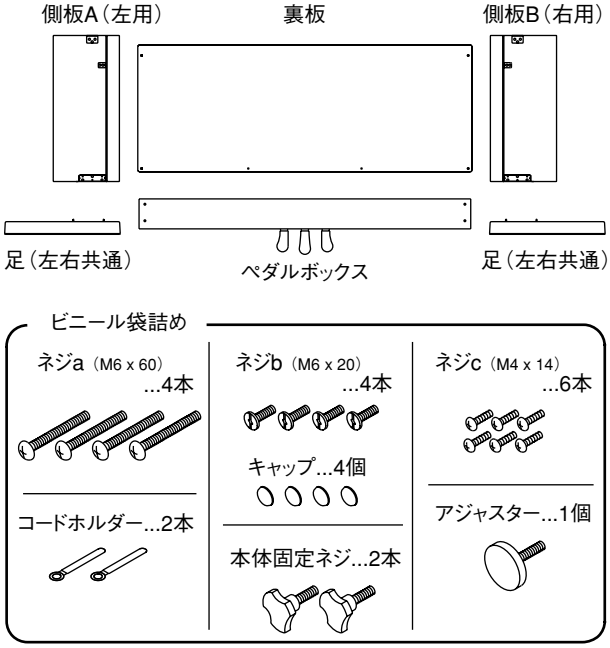
正しく組み立てるために、以下の項目に注意して作業を行ってください。

- 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- デジタル･ピアノの本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

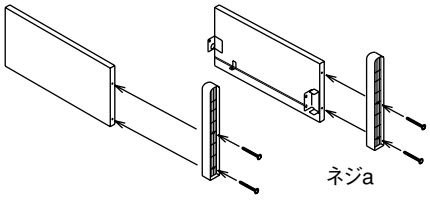
組み立て方法

お手持ちの**プラスのドライバー**を用意してください。

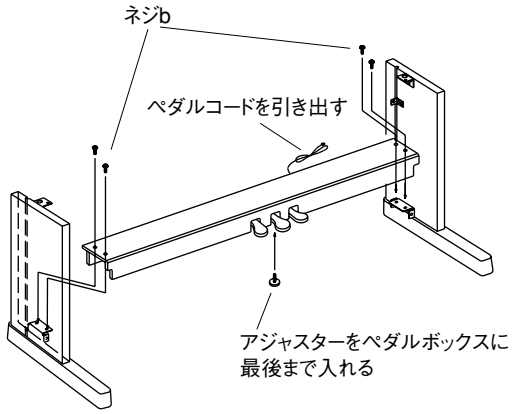
1. **箱を開けて部品を取り出します。**
   下記の部品が揃っていることを確認してください。



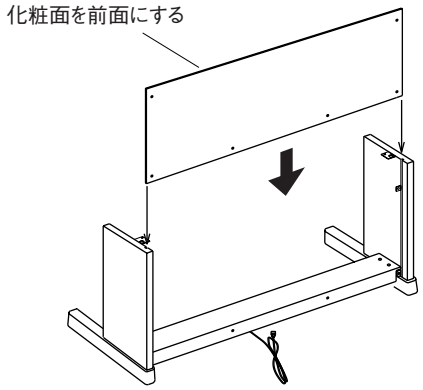
2. **ネジaで、側板ＡとＢに足を取り付けます。**
   足の2つの突起部分を、側板の穴にそれぞれ合わせてください。



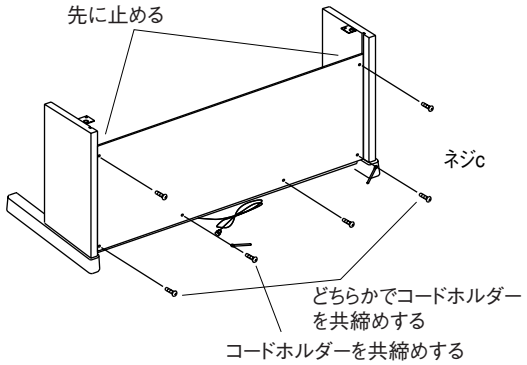
3. **ネジbで、2で組んだ側板をペダルボックスに仮止めします。**



4. **側板の溝に裏板をはめ込みます。**



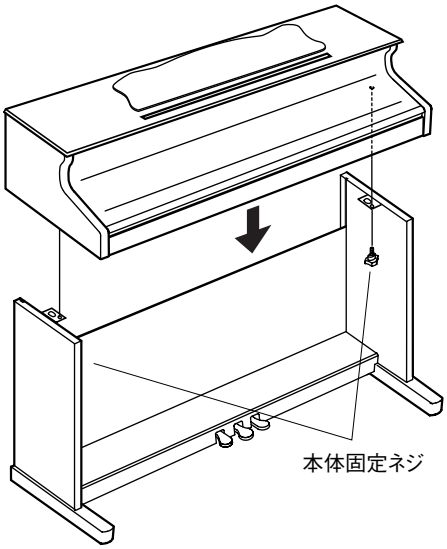
5. **ネジcで、裏板を取り付けます。**
   先に裏板の上側（2ヶ所）を止めます。
   下側を止めるときは、2ヶ所でネジcにコードホルダーを通し、スタンドに共締めします。右側または左側に共締めするかは、コンセントの位置を考えて決めてください。



6. **スタンドに隙間やかたむきがないことを確認し、すべてのネジをしっかりと固定してください。**
   ネジbのネジ頭に**キャップ**をかぶせます。

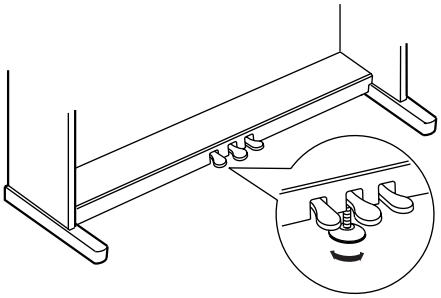
7. **本体を取り付けます。**
本体底面にあるプラスチック製の足を、側板の金具の穴に入るようにのせ、**本体固定ネジ**で、下方から固定します。

本体をスタンドにのせるときは、手を挟まないように、また下に落とさないように、ゆっくり行ってください。



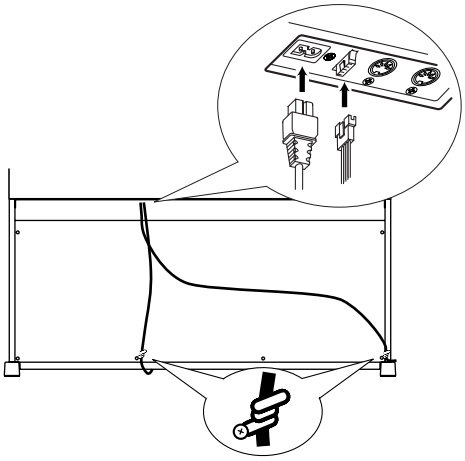
8. **アジャスターを緩めて、アジャスターが床にしっかり当たるように調節します。**

アジャスターが床にしっかり当たらないと、ペダルがぐらつき故障の原因になります。



9. **ペダルコードと電源コードを本体の底面に接続し、各コードをコードホルダーで固定します。**

ペダルコードの接続時は、コネクターの向きに注意してください。



組立後のチェック

❏ 部品は余っていませんか?
余ったときは、図中の使用先の位置を確認してください。

❏ 各ネジが緩んでいないかを確認してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- **ネジの緩みについて**
組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときはネジを締め直してください。
- **移動について**
デジタル・ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「取扱説明書」に従い、組み立て直してください。
- **分解について**
スタンドを分解するときは、組立時の逆の順番で行ってください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

[デジタルピアノ]
C-3200

MIDIインプリメンテーション・チャート

2001.9.18

ファンクション…		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時 設定可能	1 1—16	1 1—16	
モード:	電源ON時 メッセージ 代用	 × **********	3 ×	
ノート ナンバー:	音域	15—113 **********	0—127 21—108	
ベロシティ:	ノート・オン ノート・オフ	○ 9n, V=1—127 ×	○ 9n, V=1—127 ×	
アフタータッチ:	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー:		×	×	
コントロール チェンジ:	7 11 64 66 67 91, 93 120, 121	○ ○ ○ ○ ○ ○ ×	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	ボリューム *1, *4 エクスプレッション *1, *4 ダンパー・ペダル *1, *3 ソステヌート・ペダル *1 ソフト・ペダル *1, *3 リバーブ・センド、コーラス・センド *1, *4 オールサウンド・オフ、リセット・オールコントロール
プログラム チェンジ:	設定可能範囲	0—99 **********	0—99 0—99	*2
エクスクルーシブ:		○	○	デバイス・インクワイアリ シーケンス・データ・ダンプ
コモン:	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム:	クロック コマンド	○ ○	× ×	
その他:	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○123—127 ○ ×	

備考:
- *1 コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する
- *2 プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する
- *3 ハーフダンパー出力値（0、38、74、127）
- *4 シーケンス・データのみ送信する

モード1: オムニオン、ポリ　モード2: オムニオン、モノ
モード3: オムニオフ、ポリ　モード4: オムニオフ、モノ

○: あり
×: なし

※MIDI IMPLEMENTATIONの配布についてはコルグ・インフォメーションへお問い合わせください。

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、または営業技術課へお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、または営業技術課へお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、または営業技術課へお問い合わせください。
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、インフォメーションへお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-11-17	TEL03（5376）5022
営業技術課	〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1 明正大井5号営業所 コルグ物流センター内	TEL03（3799）9085
名古屋営業所	〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町100-51	TEL052（832）1419
大阪営業所	〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館7F	TEL06（6374）0691
福岡営業所	〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F	TEL092（531）0166

WARNING!

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

（この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です）

C-3200

KORG

Ⓙ ②

KORG

本社：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12　TEL 03（3325）569　URL: http://www.korg.co.jp/

© 2001 KORG INC

1402 EH *Printed in Japan*